

先の二人と同じように「おもてなしの心」が大事と語るスタッフをもうひと方紹介しよう。

高橋文雄さん（64歳）、胸元に博覧会のロゴマークをあしらった、ユニフォームであるピンクのジャンパーに袖を通し、番所跡から本丸跡までのコースを案内する語り部の会でご活躍中。高橋さんが「語り部」になられたきっかけは。

「きっかけは歴史講座に受講生として参加したことです。大河ドラマで江が取り上げられると聞いて、それなら江ゆかりのこの地の歴史を勉強しようと思い立ちました。勉強しているうちにどんどんこの地域の歴史が面白くなっていき、他の人にもその面白さを伝えたいと」。

長浜市の市域は広大で琵琶湖の面積とほぼ同じ。その中には、およそ430の文化財がある。この博覧会が、それぞれ離れた場所にある3つのメイン会場からなる日本初の広域型となったのは、作らなくてもすでにある名所・旧跡や文化財を移動しながら楽しんでもらおうと考えられたからだ。「戦国野外博物館」構想である。

「博覧会が広域型になったのは正解だと思います。そうすることで一体感ももてた。小谷の地元の人に皆がなれたんです。ガイドの仲間は旧長浜市から旧余呉町の人までいろいろな地域の人があります。しかし小谷城を紹介する時は、皆『私たちの地元の・・・』と始まる。これがうれしいですね。私も小谷だけでなくそのほかの名所を地元民としてPRしています。」

そう考えると博覧会には関係ない地元の名所旧跡なんてない。みんな輪になってつながっている。

ガイドの難しさ、面白さとは・・・

「歴史上の事実を正確に伝えることは大前提ですが難しいのはそこじゃないんです。史実を伝えるだけならどこでもできますから。私たちは史実が起こったその場で案内している。そこでしか体験できないものを感じてもらえるようなガイド。これが難しいんですし、面白いところでもあります。例えば桜。史実には関係なくても長い間そこにあるわけで、『ひよつとしたら三姉妹も見たかもしれない。満開になるときれいですよ』と付け加える。季節によって姿を変える自然や、そこに生きる生き物にもふれる。史実以外のオプションはガイド個人の腕の見せ所です。お客さんとガイドがつながるのは意外とそうい



▲ガイドの様子

ボランティアサークル メンバー募集中

みんなで、たくさんの人を楽しんでもらえる博覧会を作っていきますよ。

- 【活動内容】
☆博覧会場での会場案内
☆フチイベント等の企画実施など

【活動期間】
12月4日までの随時

申江・浅井三姉妹博覧会実行委員会
(☎63—5341)

博覧会で地域の輪ができた。 それがうれしいんです。



たかはし ふみお 高橋 文雄 さん
(小谷城ガイド「語り部の会」)

うところかもしれません。それが『おもてなし』ですよ。」高橋さんはそう言って笑った。

今回、話をうかがった3人の他にも、数多くの人達が、様々な分野で博覧会を支えています。

この地域には、全国に誇れる数多くの史跡があり、博覧会場では、様々な展示を行っています。これらの観光資源を活かし、訪れた観光客に満足していただくためには、この地域ならではの『おもてなし』が必要です。

一人でも多くの人が、博覧会に携わり、「この土地の良さを伝えよう、楽しんで帰ってもらおう」と、活躍いただくことで、博覧会は、もつと魅力あるものになります。そうしたことが、新たなつながりを生み、博覧会後の新たなまちづくりへとつながっていきます。

歴ドラ隊日記 その2

博覧会を盛り上げPRするため結成された長浜歴ドラ隊。このコーナーは博覧会のことなら何でもこの彼女たちによる日記です。思わぬ裏話が聞けるかも・・・。

それがしは小谷城主、最近では「五月人形」とも言われている浅井長政でござるよ。今回は我らの「華舞台」について書いてみようと思う。「華舞台」とは、小谷会場にある野外ステージのことじゃ。

三月二十日から始まった華舞台。実は華舞台の日になると雪、雨、強風と悪天候がおおいのじゃよ。わしは雨女（歴ドラ隊は全員女性）、おっと違う、雨男だから雨を降らせてしまおうのじゃ。しかしそんな悪天候にも関わらず、沢山のお客様が毎回集まってくれて、嬉しい限りじゃ。華舞台では、寸劇や舞、それに歌を歌ったりいたしておる。そこでポイント！歌では所々振り付けがあり、ハモリの部分があるのじゃ。子ども達も覚えやすいやさしい振り付けだから、是非覚えてもらいたい。もちろん大人達もな。

我らと一緒に歌って踊って、宴を楽しもうぞ！そして日の本を元気にして参ろう！わしは文章が下手なのじゃが、何とか読んでいただけただであらうか？現代言葉を練習中だが、やっとかタカナが使えるようになってきた。これからよろしくお願い申し上げます。



▲華舞台

長浜歴ドラ隊 長政より